

Top Message

ごあいさつ

新しい価値の創造とグローバルな成長を目指した
取組みに、継続的に注力し、社会と共に
歩んでまいります。

代表取締役社長

佐藤 廣 士



株主の皆様には、ますますご清栄のことと拝察申しあげます。

当上半期の業績について

まず、当社グループの第158期上半期(平成22年4月1日～平成22年9月30日)における取組みならびに連結業績についてご報告申しあげます。

当上半期のわが国経済は、景気対策の効果や、海外経済の改善を背景に、緩やかな回復基調が続きました。また、海外においても、中国で景気は拡大したほか、米国や欧州においても緩やかながら回復基調が続きました。

当社グループの経営環境を見ますと、国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことから、鋼材やアルミ・

銅圧延品の販売数量が、前年同期の水準を上回りました。また、油圧ショベルについては、需要が急拡大している中国市場で、需要の伸びを上回るペースで販売台数を伸ばしました。

当上半期の連結業績は、堅調な需要の取込みと、原材料価格の高騰に対応した製品価格見直しやコスト改善に努めた結果、売上高は前年同期に比べ1,338億円増収の9,220億円、営業損益は前年同期に比べ944億円増益の698億円の利益となりました。また、経常損益は前年同期に比べ935億円増益の493億円の利益、税引き後の当上半期の純損益は、前年同期に比べ747億円増益の294億円の利益となりました。

当期の中間配当について

当期の中間配当につきましては、今後の当社グループの成長のための資金の確保なども勘案しつつ、継続的かつ安定的な株主の皆様への還元という当社の配当に関する基本方針に基づき、1株につき1円50銭とさせていただきます。株主の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後の見通しについて

本年7月29日に発表した見通しに比べ機械事業部門でコスト削減が進んだことや、アルミ・銅事業部門で猛暑の影響によりエアコン向けの販売数量が増加したことなどから、当上半期の業績が増益となりました。その点を踏まえ、2010年度の連結業績見通しにつきましては、今回、連結売上高を1兆9,400億円から1兆9,100億円に、営業利益を1,050億円から1,150億円に修正いたしました。また、経常利益は750億円から800億円に修正し、税引き後の当期純利益は前回見通しどおりの450億円と見込んでおります。

「KOBELCO VISION “G”」の実現に向けて

足下の世界経済は、中国を中心とした新興国に牽引される形で回復基調が継続しているものの、先進国においては、景気対策効果の減退や、欧州における財政危機の影響などが懸念されます。またわが国においては、いわゆるエコカー補助金の終了や家電エコポイント制度の見直しなど景気対策の縮小による影響に加え、当上半期からの急激な

円高が国内産業に及ぼす影響も懸念され、先行きの不透明感が増しています。

しかしながら、本年4月に発表した「中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION “G”』」で想定した“国内需要は総じて減少”、“海外需要が伸長”、“低炭素化社会に向けた変化”という中長期的な環境認識に変わりはなく、“グローバル市場における存在感”、“安定収益体質と強固な財務基盤”、“社会との共栄”という企業像に向けて、神戸製鋼ならではのグループ総合力を発揮し、具体的な成果をあげていくことが、これからの当社グループの課題と認識しています。

当期においては、グローバル市場での事業展開という点で、中国に新たに自動車用アルミ鍛造品の生産拠点を設立することを決定したほか、インド、中国でのクレーン事業拡大のため新たに生産拠点を建設することも決定いたしました。また、当社グループの競争力の源泉である「ものづくり力」を強化するため、本年4月に「ものづくり推進部」を設置し、様々な分野にわたる「ものづくり」を融合させ、グループ全体を底上げする取組みを開始いたしました。社会との共生という面では、チリ地震で被災した高炉の修復のため、当社の技術者の派遣を行なったほか、鉄鋼スラグを利用した海洋環境の改善に向けた取組みも進めております。

このように、新しい価値の創造とグローバルな成長を目指して、これからも継続的に全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましてはなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年11月

Financial Report

業績のご報告

連結

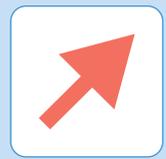
売上高

9,220 億円
(前年同期比 +17.0%)



営業損益

698 億円
(前年同期比 -)



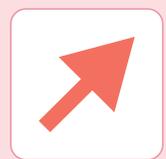
経常損益

493 億円
(前年同期比 -)



当期純損益

294 億円
(前年同期比 -)



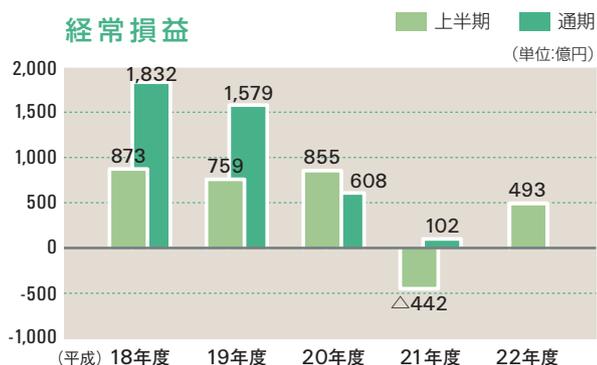
売上高



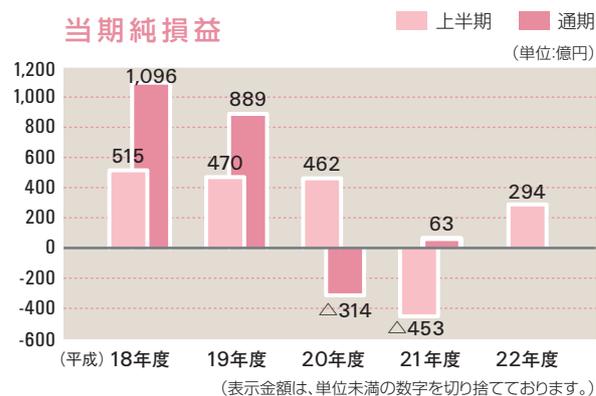
営業損益



経常損益



当期純損益



当上半期の概況

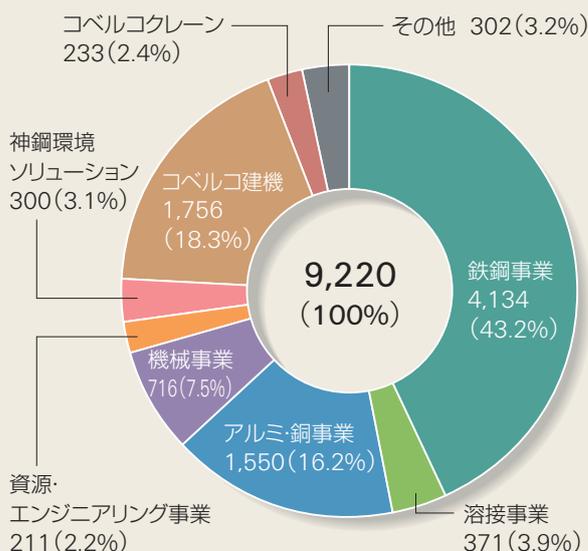
当上半期のわが国経済は、景気対策の効果や、海外経済の改善を背景に、昨年度からの緩やかな回復基調が続きました。また、海外においても、中国で景気は拡大した他、米国、欧州においても緩やかな回復基調が続きました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、国内外における製造業向けの需要が堅調に推移したことなどにより、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量が、前年同期の水準を上回りました。また、油圧ショベルの販売台数は、中国における需要が拡大したことなどから、前年同期を大きく上回りました。

この結果、当上半期の売上高は、前年同期に比べ1,338億円増収の9,220億円となり、営業損益は、前年同期に比べ944億円増益の698億円、経常損益は、前年同期に比べ935億円増益の493億円、上半期の純損益は、前年同期に比べ747億円増益の294億円の、それぞれ利益となりました。

なお、平成23年3月期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)を適用しており、従来、製品等の類似性を考慮して決定しておりました事業セグメントの区分を経営管理上の事業セグメントの区分に変更しております。前年同期比は前年同期の業績を新区分に作成し直して記載しております。

事業別売上高(平成22年度「上半期」) (単位:億円)



(注)上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額355億円を差し引いた金額が、上半期連結売上高の合計額9,220億円となります。なお、各事業分野別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)

鉄鋼事業部門

4,134 億円
(前年同期比 +19.4%)



鋼材需要は堅調に推移しました。

- 鋼材は、景気対策効果などにより、国内外における製造業向け需要が堅調に推移し、鋼材出荷数量は前年同期比増加。
- 鋼材販売単価は前年同期並み。
- 造船向け需要の減退影響から鋳鍛鋼の売上高は前年同期比減少。
- チタン製品の売上高は、需要家の在庫調整進展により前年同期比増加。

- 経常損益は、在庫評価影響の大幅改善もあり、前年同期比635億円増益の91億円の利益。



神戸製鉄所 第7線材工場



溶接事業部門

371 億円
(前年同期比 △4.7%)



溶接材料の販売数量が
増加しました。

- 溶接材料の販売数量は、中国や東南アジアの需要が堅調に推移し、前年同期比増加。
- 溶接システムの売上高は、国内の建築分野の低迷影響で前年同期比減少。
- 経常損益は、溶接材料の販売数量増影響から、前年同期比22億円増益の21億円の利益。



各種溶接材料



アルミ・銅事業部門

1,550 億円
(前年同期比 +28.2%)



アルミ製品、銅製品ともに
需要が好調に推移しました。

- 自動車向けや液晶・半導体製造装置関連を中心に需要が好調に推移し、アルミ圧延品の販売数量、アルミ鋳鍛造品の売上高ともに前年同期比増加。
- 半導体・自動車端子用の銅板条の需要が好調、猛暑によりエアコン用銅管需要が増加し、銅圧延品の販売量は増加。

- 販売価格に転嫁される地金価格が上昇。
- 経常損益は、前年同期比131億円増益の97億円の利益。



半導体製造装置用 チャンバー



機械事業部門

716 億円
(前年同期比 △9.7%)



自動車および石油精製・石油化学業界などでの設備投資が
緩やかに回復しました。

- 自動車および石油精製・石油化学業界などでの設備投資が緩やかに回復。関連製品の受注が前年同期比増加。
- 当事業の受注高は前年同期比61.5%増の694億円。上半期末の受注残高は1,572億円。
- 売上高は石油精製用高圧反応器の売上計上が集中した前年同期に比べ減少。

- 経常利益は前年同期比20億円減益の85億円。



スチームスター®



資源・エンジニアリング 事業部門

211 億円
(前年同期比 △15.1%)



大型還元鉄プラントを
受注しました。

- 大型還元鉄プラントを受注。受注高は前年同期を上回る。
- 受注高は前年同期比209.9%増の478億円。
- 当上半期末の受注残高は927億円。
- 売上高は、大型ペレットプラントの売上を計上した前年同期比では減少。
- 経常利益は前年同期比2億円減益の14億円。



ITmk3® 回転炉床炉



神鋼環境 ソリューション

300 億円
(前年同期比 △19.9%)



水処理プラントや化学・食品
関連装置の受注が堅調に推移
しました。

- 水処理プラントや化学・食品関連装置の受注が堅調に推移し、受注高は前年同期比6.1%増の353億円。
- 上半期末の受注残高は450億円。
- 売上高は、大型廃棄物処理プラントの売上を計上した前年同期に比べ減少。
- 経常利益は、コスト削減効果により、前年同期に比べ6億円増益の11億円。



冷却塔



コベルコ建機

1,756 億円
(前年同期比 +67.4%)



中国以外の地域でも需要は
堅調でした。

- 中国での販売台数が前年同期に比べ大幅に増加。
- 東南アジアでは需要の回復が続く、国内でも需要は回復に転じ、販売台数は前年同期を上回る。
- 経常利益は前年同期に比べ180億円増益の188億円。



油圧ショベルSK225SR



コベルコクレーン

233 億円
(前年同期比 △16.4%)



一部地域を除き需要が低迷しました。

- 一部地域を除き需要が低迷し、販売台数は前年同期を下回る。
- 経常利益は前年同期比5億円減益の1億円。



シティコンシャスクレーン
PANTHER-X700

etc

その他

302 億円
(前年同期比 △25.2%)



経常利益は改善しました。

- 不動産販売において、分譲マンションの引渡し戸数が減少。
- 液晶配線膜用ターゲット材の販売数量は増加。
- 経常利益は、液晶配線膜用ターゲット材の販売数量増影響から前年同期比4億円増益の20億円。



ジークレフ御影城ノ前



ターゲット材

平成22年度(2010年度)連結業績見通し

	平成22年7月29日発表	平成22年10月28日発表	(参考) 平成21年度連結業績
売上高	1兆9,400億円	1兆9,100億円	1兆6,710億円
営業利益	1,050億円	1,150億円	460億円
経常利益	750億円	800億円	102億円
当期純利益	450億円	450億円	63億円
1株当たり当期純利益	14円98銭	14円98銭	2円9銭

● 全社 ● 鉄鋼事業部門 ● アルミ・銅事業部門 ● コベルコクレーン

2010 (平成22年)

4月 ● 中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」を発表

- 船舶用高強度鋼板の開発で
第42回市村産業賞貢献賞を受賞

5月 ● アルミ・銅事業部門

中国でのアルミ鍛造合併事業契約締結

当社と三井物産株式会社、豊田通商株式会社の3社は本年5月に中国での自動車サスペンション用アルミ鍛造部品の製造・販売を行なう合併事業契約を締結、新会社を6月に江蘇省蘇州市に設立しました。今後は2012年8月の操業開始を目指し、新工場の建設に着手する予定です。

自動車サスペンション用アルミ鍛造部品は環境規制による軽量化ニーズなどから、高級車を中心に採用が拡大しています。当社はこれまで三重県の大安工場、米国ケンタッキー州のコウベアルミニウムオートモーティブプロダクツ社で製造してきましたが、新たな製造拠点の設立により、自動車サスペンション用アルミ鍛造部品の3極供給体制が整うことになります。

- 神戸空港北側護岸における鉄鋼スラグを用いた藻場造成試験開始
- 新日本製鐵株式会社との連携施策の一環として、
新日本製鐵株式会社広畑製鉄所構内での
製鉄ダストリサイクルプラントの建設決定

7月 ● 高砂製作所の鋳鍛鋼用新プレスライン竣工

- クローラクレーン事業 インド進出決定

9月 ● コベルコクレーン

クローラクレーン事業 中国進出決定

コベルコクレーン株式会社は世界最大のクローラクレーン市場である中国への取組みを強化するため、中国での生産を開始することを決定しました。現地生産にあたっては、中国の建設機械メーカーである四川成都成工工程机械股份有限公司と共同で合併会社を設立し、2012年8月より生産を開始する予定です。

コベルコクレーン株式会社では、今後の成長市場であるインドへの進出も本年7月に決定しています。インドでの生産開始は2011年10月を予定しています。

当社グループはこれらの中国・インド進出により、先に進出している油圧ショベルとクローラクレーンの両方を巨大市場である中国とインドの双方で生産する世界で初めてのメーカーとなります。



自動車サスペンション用アルミ鍛造部品



大型クローラクレーン SL4500

環境への取組みと 社会との共生

神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

■環境経営基本方針

『グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上』

—— グループの環境力向上 ——

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

1. 環境に配慮した生産活動
2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献
3. 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

■地球温暖化防止に寄与する高強度鋼板の開発で市村産業賞貢献賞を受賞

神戸製鋼は「高い船体安全性を備え地球温暖化防止に寄与する高強度鋼板の開発」で、2010年4月に第42回市村産業賞貢献賞を受賞しました。リコー三愛グループ各社の創業者・市村清氏にちなんだ同賞は、産業分野・学術分野の進展に多大な貢献をした個人またはグループに贈られる名誉ある賞です。

近年大型化が進む船の鋼材に高強度鋼板を使用すると、船体の軽量化により燃費が向上し、CO₂削減に繋がります。今回、世界最高強度クラスの船体構造用厚鋼板YP47鋼を、従来大量添加が不可欠とされてきたレアメタルを極少量に抑え、高度な製造技術を駆使することにより量産化する技術を確立したことに対して高い評価を受け、本賞の受賞に至りました。

すでに超大型コンテナ船や自動車運搬船へ採用されており、今後さらに適用船や適用部位の拡大が期待されています。

■海洋環境の修復に鉄鋼スラグを活用する調査研究を開始

神戸製鋼では、鉄鋼製造の副産物である「鉄鋼スラグ」を環境保全修復材料として活用するため、神鋼スラグ製品・神鋼建材工業・コベルコ科研と共同して、鋼製魚礁と組み合わせた「鋼製藻場魚礁」を、家島諸島(兵庫県姫路市沖)近くの海域や神戸空港北側護岸に設置し、産官学の協力/連携の下、海藻の育成や漁場環境の改善を目的とした調査研究を開始しています。

鉄鋼スラグに含まれる鉄分やミネラルなどの栄養分により海藻が繁茂するなど、海洋環境修復への効果が期待されます。

現在のところ、海藻の繁茂や魚の回遊が見られ、順調な経過となっています。



鋼製藻場魚礁



兵庫県姫路市沖に設置した魚礁の3ヵ月後(上)と6ヵ月後(右)の様子



社会貢献への取組み

灘浜サイエンススクエアが『生物多様性保全につながる企業のみどり100選』に選ばれました。

神戸製鋼の地域交流施設「灘浜サイエンススクエア」が、財団法人都市緑化基金による『生物多様性保全につながる企業のみどり100選』にこのほど認定されました。

これは、海岸の埋立地という厳しい環境下にもかかわらずビオトープで生態環境を再生し、生物多様性の保全に努めるとともに、「自然教室」を開催するなど、地域の環境教育の場として活用していることなどが評価されたものです。

「灘浜サイエンススクエア」は、製鉄・発電・エネルギー・環境をテーマに、科学や技術の面白さや不思議さを学ぶ体感型学習施設で、2004年4月の開館以来、小中学生の対外学習や、地域の皆様の交流の場として多くの方にご利用いただいています。

ホームページ : <http://www.nadahama.jp>

開館 : 9:30~16:30(入館は16:00まで)

休館日 : 月曜日(祝日の場合、翌平日)、年末年始

入館料 : 無料

住所 : 神戸市灘区灘浜東町2番地

T E L : 078-882-8136



展示室



自然教室/ビオトープ観察会



※2009年7月からは、新しくブログ「コベルコマンからのお知らせ」を立ち上げ、灘浜サイエンススクエアで開催された自然教室などイベントの楽しい様子やビオトープの生き物の姿などを発信しています。ぜひブログにアクセスしてみてください。

ブログアドレス : <http://www.kobelco-man.com/>

Corporate Data

事業分野

(平成22年9月30日現在)

■鉄鋼事業部門

条鋼(普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼)、鋼板(厚板、中板、薄板<熱延・冷延・表面処理>)、鋼片、鍛造鋼品(船用部品・電機部品・産業機械部品等)、チタンおよびチタン合金、鉄粉、鋳物用銑、製鋼用銑、スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、電力卸供給

■溶接事業部門

溶接材料(各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス)、溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、溶接関連試験・分析・コンサルティング業

■アルミ・銅事業部門

アルミ圧延品(飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板、アルミ箔)、銅圧延品(半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、復水管、空調用銅管)、アルミニウム合金およびマグネシウム合金鋳鍛造品(航空機用部品、自動車用部品等)、アルミ加工品(自動車用部品・建材・建設用仮設資材等)

■機械事業部門

エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高压装置、真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、各種プラント(製鉄圧延、非鉄等)、各種内燃機関

■資源・エンジニアリング事業部門

製鉄プラント(還元鉄)、各種プラント(ペレタイジング・石油化学等)、原子力関連プラント、砂防・防災製品、土木工事、新交通システム、搬送機器

■神鋼環境ソリューション

水処理プラント、廃棄物処理プラント、化学・食品機械

■コベルコ建機

油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ

■コベルコクレーン

クローラクレーン、ラフテレーンクレーン、作業船

■その他

不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、不動産賃貸・ビルマネジメント、マンション管理、特殊合金他新材料(ターゲット材等)、各種材料の分析・解析、高压ガス容器製造業、超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社

連結子会社および持分法適用会社 [211社]

(平成22年9月30日現在)

■鉄鋼事業部門：42社

日本高周波鋼業株式会社、神鋼特殊鋼管株式会社、神鋼建材工業株式会社、神鋼神戸電機株式会社、神鋼物流株式会社、神鋼ボルト株式会社、堺鋼板工業株式会社、株式会社神鋼エンジニアリング & メンテナンス、神鋼総合サービス株式会社、株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ、神鋼鋼線工業株式会社、関西熱化学株式会社、株式会社テザックワイヤロープ 他

■溶接事業部門：23社

KOBEウェルディングワイヤ株式会社、エヌアイエル株式会社、青島神鋼溶接材料有限公司、コウベ ウェルディング オブ コリア カンパニー リミテッド 他

■アルミ・銅事業部門：28社

株式会社コベルコ マテリアル銅管、神鋼リードミック株式会社、サン・アルミニウム工業株式会社、神鋼ノース株式会社、神鋼メタルプロダクツ株式会社、コウベ プレシジョン テクノロジー センディリアン ベアヘッド、シンガポール コウベ プライベート リミテッド、コウベ エレクトロニクス マテリアル(タイランド)カンパニー リミテッド 他

■機械事業部門：14社

コベルコ・コンプレッサ株式会社、神鋼造機株式会社 他

■資源・エンジニアリング事業部門：21社

ミドレックス テクノロジーズ インコーポレーテッド 他

■神鋼環境ソリューション：5社

株式会社神鋼環境ソリューション 他

■コベルコ建機：37社

コベルコ建機株式会社 他

■コベルコクレーン：9社

コベルコクレーン株式会社 他

■その他：32社

神鋼不動産株式会社、株式会社コベルコ科研、神鋼機器工業株式会社、コウベ スチール USA ホールディングス インコーポレーテッド、神鋼商事株式会社、日本メディカルマテリアル株式会社 他

(注)※印は持分法適用会社であります。

取締役および監査役、執行役員

(平成22年9月30日現在)

取締役社長(代表取締役)
佐藤 廣士

■本社

取締役副社長(代表取締役)
賀屋 知行
専務取締役
川田 豊
専務取締役
藤原 寛明

常務執行役員
泉 博二
常務執行役員
関 勇一
常務執行役員
川崎 博也

執行役員
金子 明
執行役員
花岡 正浩

■鉄鋼事業部門

取締役副社長(代表取締役)
※山口 育廣
常務執行役員
津村 拓良
常務執行役員
尾上 善則
執行役員
塚本 晃彦

執行役員
梅原 尚人
執行役員
宮脇 新也
執行役員
宮下 幸正
執行役員
岩佐 道秀

執行役員
河瀬 昌博
執行役員
藤井 晃二

■溶接事業部門

常務取締役
※粕谷 強

執行役員
高村 実朗

■アルミ・銅事業部門

専務取締役
※高橋 徹
専務執行役員
下村 良介

執行役員
濱中 龍介
執行役員
佐藤 孝彦

■機械事業部門

取締役副社長(代表取締役)
※重河 和夫

常務執行役員
植木 一秀

執行役員
大濱 敬織

■資源・エンジニアリング事業部門

取締役副社長(代表取締役)
※松谷 高志
専務執行役員
田中 順

常務執行役員
沖田 誠治
執行役員
眞部 晶平

■社外取締役

取締役
中野 淳司

取締役
北畑 隆生

(注) ※印は、各事業部門長であります。

監査役(常勤)
大越 年祝
監査役(常勤)
宮崎 純

監査役(社外監査役)
金子 崇輔
監査役(社外監査役)
池田 義一

監査役(社外監査役)
佐々木 茂夫

会社の概要

(平成22年9月30日現在)

- 創 立 明治38年9月
- 資 本 金 2,333億1,324万8,065円
- 発行済株式総数 31億1,506万1,100株
- 株 主 数 244,149名
- 従 業 員 数 10,297名

事業所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜町二丁目10番26号
☎078(261)5111(大代表)

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川五丁目9番12号
☎03(5739)6000(大代表)

支 社 大阪・名古屋

支 店 北海道(札幌市)・東北(仙台市)・
新潟(新潟市)・北陸(富山市)・
四国(高松市)・中国(広島市)・
九州(福岡市)・沖縄(那覇市)

海外事務所 ニューヨーク・デトロイト・シンガポール・北京・上海
(注)「海外事務所」には現地法人を含めております。

研 究 所 神戸

製鉄所・工場 <鉄鋼> 加古川・神戸・高砂
<溶接> 藤沢・茨木・西条
<アルミ・銅> 真岡・長府・大安
<機械・資源・エンジニアリング> 高砂・播磨

神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

ご所有の株式はどちらにお預けですか？

※ご一読ください

このページをご一読いただき、ご確認くださいませようお願いいたします。

1. 証券会社にお預けでない株式について

証券会社にお預けになっていない当社株式は、三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」にて管理しております。「特別口座」では単元株式の売買はできません。証券会社にお預けでない株式について、証券会社の口座に移管することをお奨めします。(手続きの詳細は **3.** をご覧ください。)

2. 特別口座で管理されている株式の有無のご確認のお願い

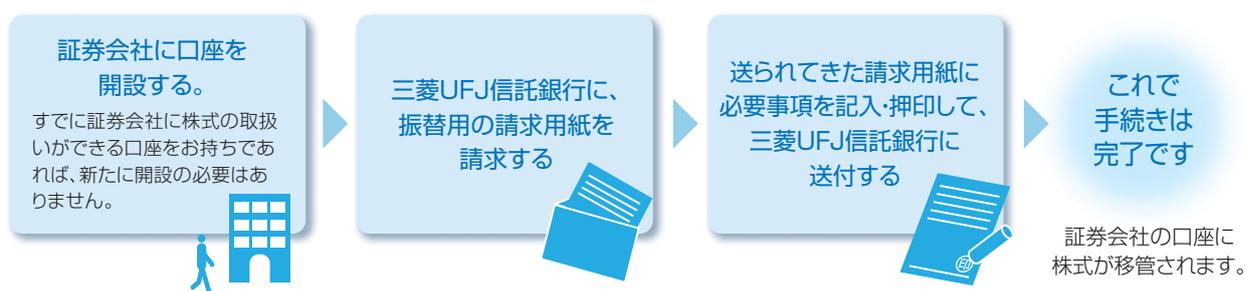
次のような場合は、ご所有株式の全部または一部が「特別口座」にて管理されている可能性があります。

- ① お手許に「株券」をご所有のまま証券会社にお預けになっていない場合
- ② 登録株式の場合(当社が株券を発行することなく、ご所有されていると株主名簿に“登録”のみさせていただいた株式)
※平成元年3月末時点の株主様には、同年5月18日に、1,000株につき30株を②の登録株式の形で交付しております。平成元年3月末以前から引き続いて当社株式をお持ちいた

している株主様、ご所有株式を過去に全て売却もしくは譲渡されたご認識にもかかわらず、現在も当社から株主様宛ての各種書面が届く方につきましては、現在、特別口座で管理されている株式をお持ちの可能性がございます。

- ③ 配当金関係書類に記載の所有株式数と、証券会社にお預けの株式数が異なる場合
(同封の配当金関係書類の“ご所有株式数”の欄をご確認下さい。)

3. 「特別口座」から証券会社の口座への株式の移管の方法



<特別口座についてのお手続きお申込み先・お問い合わせ先>

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777

Information



工場見学会参加者募集のご案内

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様工場見学会を実施いたします。今回ご覧いただく工場は、**神戸製鉄所(兵庫県神戸市)**でございます。

つきましては、下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。



見学工場：神戸製鉄所
(兵庫県神戸市灘区灘浜東町2)

対象者：平成22年9月30日現在、当社株式
1,000株以上をご所有の株主様

工場見学会の概要

申込番号	実施日時 (平成23年)	集合場所	集合時刻	解散場所・予定時刻
①	3月5日	JR六甲道駅近辺	9:00	JR六甲道駅近辺 12:40頃
②	3月5日	JR六甲道駅近辺	13:00	JR六甲道駅近辺 16:40頃
③	3月6日	JR六甲道駅近辺	9:00	JR六甲道駅近辺 12:40頃
④	3月6日	JR六甲道駅近辺	13:00	JR六甲道駅近辺 16:40頃

※JR六甲道駅までの所要時間：JR大阪駅から東海道本線(神戸線)快速で約25分。

※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

募集人数：200名(各回50名) ※募集人数には同伴者を含みます。

以下の点につき、あらかじめご了承ください。

※ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。

抽選の結果は2月上旬にご通知する予定です。

※同伴者は1名までとさせていただきます。

※以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。

- 株主様ご本人からのご応募でない場合
- 同伴者様を2名以上ご記入の場合
- 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合

応募方法：同封のはがきに必要な事項をご記入のうえ、ご返送ください。

【締切日：平成23年1月7日(金)当日消印有効】

参加費：無料

※ただし、集合・解散場所(JR六甲道駅)までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

お問い合わせ先：株式会社神戸製鋼所 法務部 工場見学会係
TEL 078-261-4067

受付時間 10:00～17:00(土、日、祝日、年末年始を除く)

これまでの株主様工場見学会開催状況のご報告

当社では、株主様工場見学会を6回開催してまいりましたが、いずれの回も、全国から多数のご応募を頂戴しております。毎回多数のご応募をいただき、厚く御礼申し上げますとともに、今回も多数のご応募をお待ち申し上げます。

〈これまでの開催実績〉

	日時	開催場所	募集人数	ご応募総数	ご覧いただいた施設、工程など
第1回	平成20年 3月 1日～ 2日	加古川製鉄所	280人	3,882通	第2高炉、厚板工場、原料ヤード、防塵ネット
第2回	平成20年11月 1日～ 2日	加古川製鉄所	300人	3,835通	第2高炉、熱延工場、原料ヤード、防塵ネット
第3回	平成21年 3月14日～15日	真岡製造所	160人	1,150通	溶解・面削・粗圧延・仕上圧延・連続焼鈍の各工程と製品展示ルーム
第4回	平成21年11月11日～12日	高砂製作所	240人	2,890通	鑄鍛加工工場、チタン工場、機器工場、鍛圧工場、産業機械工場
第5回	平成22年 3月 7日～ 8日	加古川製鉄所	300人	3,318通	第2高炉、厚板工場、原料ヤード、防塵ネット
第6回	平成22年11月 6日～ 7日	真岡製造所	160人	1,216通	溶解・面削・粗圧延・仕上圧延・連続焼鈍の各工程と製品展示ルーム

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月

基準日

定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

(その他必要のあるときはあらかじめ公告します。)

公告方法 電子公告

(当社ホームページをご覧ください。)

<http://www.kobelco.co.jp>

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

株式に関するご案内

当社の株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下のとおりです。

①証券会社にお預けの株式について

お預けの証券会社にお問い合わせください。

②証券会社にお預けでない株式について

三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

〈郵便物および電話でのお問い合わせ先〉

〒541-8502

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777

(通話料無料:オペレーターがお伺いいたします)

土・日、祝日を除く9:00～17:00

KOBELCO

インターネット ホームページ <http://www.kobelco.co.jp>



この「株主の首帳へ」は環境に配慮し、無塩素漂白による、古紙パルプ15%、植林木・間伐材パルプ85%の用紙と、植物油インキを使用しています。